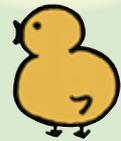


あたらしくはいった本 (平成30年5月 貸出開始資料から)

- 小説 カットバック(今野敏/著) 5時過ぎランチ(羽田圭介/著)
傍流の記者(本城雅人/著) あやかし草紙(宮部みゆき/著)
さざなみのよる(木皿泉/著) みなさんの爆弾(朝比奈あすか/著)
ヘイ・ジュード(小路幸也/著) 砂の家(堂場瞬一/著) パルス(楡周平/著)
黙過(下村敦史/著) ラヴェルスタイン(ソール・ペロー/著)
- 随筆・詩などの文学 魂の秘境から(石牟礼道子/著)
バッグをザックに持ち替えて(唯川恵/著) 文芸翻訳教室(越前敏弥/著)
明日への一步(津村節子/著) いずれの日にか国に帰らん(安野光雅/著)
一日の苦勞は、その日だけで十分です(三浦綾子/著)
- その他の本 幕末・明治偉人たちの「定年後」(河合敦/著)
昆虫学者はやめられない(小松貴/著)
日本の気配(武田砂鉄/著) 本日晴天お片づけ(伊藤まさこ/著)
どんでん返しのバッグ(roll/著) 九州バカ(村岡浩司/著)
こどもスケッチ(おーなり由子/文と絵)



みんなの としょかん



市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

平成30年	日	月	火	水	木	金	土
7	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

○のついた日は休館日
金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。



明治維新150年特集 五卿と内山の射撃場

宇智山村にて発砲場所でき、下宿の輩のおのおの行き向いて見物かたがた装束銃十五発これを発す、七十間(約120m)ばかりなり。

慶応3(1867)年5月27日、五卿の一人、東久世通禧が日記に残した内山村の記録です。この日、五卿と従者が内山で射撃訓練を行います。使用した銃は「装束銃」と呼ばれる西洋式ライフル銃です。当時、内山は薩摩藩や五卿が射撃訓練を行う場所でした。内山における射撃についての最も古い記録は、慶応2年4月24日、薩摩藩が小銃の試し撃ちを行ったというものです。当時、薩摩藩は幕府による五卿の強制送還を危惧しており、太宰府に滞在する幕吏を威圧する目的があったようです。連日、北谷辺りで大砲・小銃の射撃訓練を行い、その音はこの地域に轟いたといわれています。



～公文書館だより⑤～

影響したのかもしれない。4月21日には、五卿は長州藩より装束銃30丁と弾薬3000発を500両で購入し、同日23日に従者らに支給しました。また、五卿は毛利家より「元込騎馬銃」(後装式で短銃身の銃)5挺を進呈され、翌月12日に東久世が内山で試射を行っています。こうした中、冒頭で述べた射撃場が新たに完成し、射撃訓練を行う環境が整備され、従者も参加しました。

8月6日に五卿の主座三条実美は従者一同を集め、国難の時節につき国家のため文武の稽古に励むよう命じるとともに、日々の稽古の課程を言い渡します。その中には2と7が付く日に射撃訓練を行うことが盛り込まれていました。実際に射撃を行った記録を見てみると、4月に銃を購入して以降、内山で計36回射撃訓練を行って見えます。特に9月は最も多い7回を数え、2と7が付く日以外にも訓練を行っている日が見られます。

このように内山は、当初薩摩藩が射撃訓練を行う場所でしたが、のちに五卿と従者が射撃を行う場所となりました。慶応3年12月19日に太宰府を発つまで、五卿は新しい時代の到来を期待しつつ、射撃訓練に励んでいたであろう姿が想像できます。

公文書館 篠崎 将貴

慶応3年に入ると、五卿は従者より、幕府が新將軍徳川慶喜のもとで兵制をことごとく西洋式に変革し、訓練に励んでいるという報告を受けます。これが後の訓練規則の改革に

「明治維新150年特集」は今回で終了です。ご愛読ありがとうございました。